

表良樹個展 『等身の造景』

- 会 期 2019年4月20日（土）～2019年5月25日（土）
- 開 廊 火～金：13:00～20:00 | 土：12:00～19:00（日・月・祝 休廊）
※4月29日（月・祝）～5月6日（月・祝）休廊
- 会 場 KANA KAWANISHI GALLERY
〒135-0021 東京都江東区白河4-7-6 白河和楽ビル1F/ TEL 03-5843-9128

▼オープニングレセプション

2019年4月20日（土）18:00～20:00



Tectonics_drums#1

2019 | polyester resin, oil | © Yoshiki Omote, courtesy KANA KAWANISHI GALLERY

KANA KAWANISHI GALLERYは、2019年4月20日（土曜日）より表良樹個展『等身の造景』を開催いたします。

表良樹（おもて・よしき）は、大きな運動や成り立ちを、日常的なスケールに転換させる作品群をこれまでに制作してきました。地殻変動や大気など、生活者の視点では捉えづらいより大きな周辺の現象を、彫刻作品などに投影し、身体的に実感し得るものとして提示しています。

例えば「Tectonics」では、プラスチック製の日用品の内部に、様々な色相のポリエステル製樹脂を流し込み、攪拌させ、それを積層させた後、落下などの衝撃を与えて断面を露わにさせることで作品を完成させています。彫刻作品といえば、通常は表面の形状や様相で造形を判断されるものですが、表の作品は、内側の造形に至るまでの過程や時間をも織り込んでおり、固有の広がりや内在させています。メディウムとしては人工物であるプラスチックを起用しつつも、その造形は自然現象にプロセスの多くを委ねることで、人工物と自然現象をないまぜにしなが、鑑賞者の身体性に訴えうる作品に仕上げていると言えるでしょう。弊廊での初個展となる本展は、『等身の造景』と題し、地殻変動をモチーフにした彫刻作品「Tectonics」と、大気の運動をモチーフにした平面作品「Turbulence」を併せて展示することでギャラリー空間を構成します。鑑

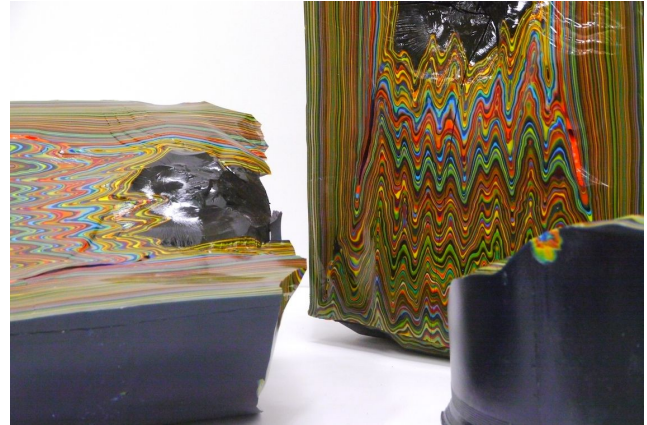
賞者の一人ひとりが、それぞれの立ち位置やスケール感について、いかに実感しうるのかというテーマについて、改めて問いかけます。是非、ご来廊をお待ちしています。



Tectonics_drums#1 (detail)

2019 | polyester resin, oil

© Yoshiki Omote, courtesy KANA KAWANISHI GALLERY



Tectonics_drums#1 (detail)

2019 | polyester resin, oil

© Yoshiki Omote, courtesy KANA KAWANISHI GALLERY

アーティストステートメント

「自分が立っている場所、時間はこの世界のどこに位置しているのか？」

そんな問いを出発点に

地殻変動をモチーフにした彫刻作品「Tectonics」

大気の運動をモチーフにした平面作品「Turbulence」

2つの作品シリーズをギャラリー空間に展開します。

測りきれない大きな時間や運動について、あるいは立ち位置について考えます。

表 良樹

アーティストプロフィール

表 良樹 (おもて・よしき)

1992年大阪生まれ。2014年京都造形芸術大学美術工芸学科総合造形領域卒業。同年、東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻入学、2016年に修了。主なグループ展に『群馬青年ビエンナーレ2019』（2019年、群馬県立近代美術館）、『六甲ミーツアート2018』（2018年、六甲カンツリーハウスほか）など。「第3回CAF賞」（2016年）最優秀賞、「アートアワードトーキョー丸の内 2016」木村絵理子賞を受賞。